北

作歌・作曲

喪失われ 北の都は開発かれて ゆく大自然

恵迪の名は永遠に 寮の姿も変われども

残雪溶けて東風吹かば

湿原に咲く花影なし 川流絶えて水は涸れ 大地は黒々と輝けど

緑葉さわぐ楡の森りょくよう

短き盛夏の夕陽を浴びて 昔日の影すでになく ただ寥々と佇立まう

> 早雪までのこの眺望 秋風にうたれて舞う落葉がぜ まからば ままり はまり ままり きょう 虚空逍遥う月の影

Ŧī.

白雪烈風に舞い上がはくせつかぜまります。

ŋ

樹影に黒き鴉鳥 疎々たる杜を吹き抜きな 寂莫として声もなし 行ぬ

迷り 行けれ 警問性が も知 うの夜は未だ明けず の鐘鳴らせども れ æ 対風に

の痛みつのるかな

仮寝の夢を 貪りて れに旅してこの宿に 北に旅してこの宿に 過ぎし歳月早二年 に旅し てこの宿に

懐かしさ満つこの団居